

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクト名称 【参加人数： 8 名】

プロジェクトメンバー

石垣島を元気にするプロジェクト

環境システム学科
2年 江利川法孝 白土航太 山下達也 吉川由季乃
1年 大沢拓也 改正菜摘 田中敬之 柳谷龍摩

活動概要・目的 【活動期間： 2011年 6月 1日 ~ 2012年 3月 17日】

石垣島を含む沖縄県八重山諸島は世界でも貴重なサンゴ生息域となっている。現在、このサンゴ礁が「地球温暖化による海水温の上昇」「生活排水」「農地からの赤土(耕土)流出」など複数の要因により、白化・死滅の危機にある。そこで本プロジェクトは石垣島独自の地域の問題である「赤土流出」という視点から石垣島のサンゴ礁保全を行っているが、国や県からの十分な補助金が得られない等の理由から赤土流出対策はされておらず、サンゴ礁の白化・死滅は加速している。今年には以前より続けていた地産地消マップの欠点であった「サンゴ保全に間接的である」ということを改善すべくe-MAPを提案した。このe-MAPは環境対策を行っている農家に着目した電子マップである。その対策している農家の数の増加が赤土流出の減少と定義して活動を行おうとした。今年の夏・春の現地活動では、農家の情報収集をするためヒアリングを中心とした活動が行われた。

年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
6月	新メンバー歓迎会	大宮校舎	食事会を行う
8月	オープンキャンパスに出展	大宮・豊洲校舎	石垣島を元気にするプロジェクトのブースを設けて、来場者に活動紹介を行う
8~9月	現地活動	石垣島	ヒアリングを基に調査を行う
9月	土木学会第19回地球環境シンポジウム	茨城大学	他大学や企業など環境対策の発表会、懇親会に参加する
10月	SD研究会	大宮校舎	活動の中間報告を行う
11月	ISOシンポジウム	斉藤記念館	授業の一環として活動報告を行う
12月	SD研究会	大宮校舎	年間報告を行う
	第9回全国大学生環境活動コンテスト	代々木オリンピックセンター	◆自分たちの活動を発表を通して外部に発信した ◆全国の環境活動をしている大学生との交流ができた
2月	アトム通貨交流会	高田馬場	早稲田の学生とお互いの活動のコラボについての話し合い
3月	現地活動	石垣島	ヒアリングを基に調査を行う

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
3日	自然探路	石垣やいま村	石垣島の自然を散策する
4日	白保日曜日	WWF 白保サンゴ村	地域の農家さんが野菜を持ち寄り、来場者に販売するのを手伝った
	ビーチクリーン	伊原間海岸	ビーチのゴミを回収・分別のイベントに参加した
	白保カフェ	WWF 白保サンゴ村	現地の方への活動紹介の場をいただき発表を行った
5日	サンゴ養殖体験	野底の海	八重山漁業組合の協力を得て、サンゴ養殖体験を行った
8日	サトウキビ植え	白保の農地	現地の農家さんの畑で、サトウキビの苗植えを手伝った
	石西礁湖サンゴ礁基金交流会	環境省国際サンゴ礁モニタリングセンター	サンゴ礁基金の講演会を通して、現地の農家さんや江戸川大学の学生と交流した
10日	月桃植え	白保の農地	白保サンゴ村の協力を得て、現地の農家さんの畑に月桃を植えた
	サンゴ講演会	白保の公民館	琉球大学の大学院生や研究者の方からサンゴとそれを取り巻く環境について詳しくお話を聴かせていただいた
11日	サトウキビの刈り取り	富野の農地	現地の農家さんのサトウキビの刈り取りを手伝わせてもらった
	インカチの石積み	白保の海	伝統的な漁法の一つであるインカチの石積みを体験させてもらった



2012年春の現地活動

白保日曜市

WWF白保サンゴ村で農家さんたちの協力により、白保日曜市が開催され、そのお手伝いをするために参加させていただきました。

島野菜の販売、石垣島の海の幸を使った郷土料理を作るのをお手伝いしました。

農家の方たちのお手伝いをする中、地域の方たちと交流を深めることができました。

今まで受け継がれてきた石垣島の文化・食材を体験することができた。



サンゴ養殖体験

サンゴウィークのイベントの1つである八重山漁業組合によるサンゴ養殖体験プログラムに参加しました。今回はミドリイシと呼ばれる比較的成長の早いサンゴ礁の苗の養殖を体験した。養殖するため、サンゴには国の規定によりそれぞれ番号が振られたタグがつけられる。小さなサンゴを砂を入れたパイプに植え、潮によって流れないように周囲を接着剤で固定する。今回養殖したサンゴは、八重山漁業組合のHPに成長の記録が残されています。この記録を基に今後見届けていきたいと考えている。



石西礁湖サンゴ礁基金交流会

環境省国際サンゴ礁モニタリングセンターで、現地の農家さんや江戸川大学の学生たちと交流会を行い、石西礁湖にあるサンゴ礁の現状やサンゴ礁基金がどのような対策に使われているかなどお話を聴かせていただいた。その時のお話では赤土対策費用としてのサンゴ礁基金が主なテーマであり、プロジェクトメンバーも活動との関連性を見出して積極的に質問したり自分たちの活動紹介を行っていた。



サンゴ礁講演会

白保の公民館で行われたサンゴ礁講演会では地域の方々を始め研究者や学生、留学生など様々な人たちが集まる会となり、サンゴ研究者の方と琉球大学の大学院生の方がそれぞれ発表を行った。特に琉球大学の大学院生の方は石垣島の農業をテーマに取り上げた発表だったので、同じ農地のことを調査している立場の者として大変興味深い話であった。



2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクトの成果・結果・達成度・関係者からの評価

- ◆今までの本プロジェクトは大宮キャンパスと石垣島での活動を主としてきた。よって、今までは他大学との交流の場が少なかった。しかし全国大学生環境活動コンテストでの交流をきっかけとして、アトム通貨を発足させた早稲田大学との交流の機会をつくり、プロジェクトの活動の幅が広がりつつある。
- ◆春の現地活動において、直接農家の方々とお会いすることで、今まで弱かった農家とのネットワークの基盤をより強固なものにすることができた。e-MAPについても、今後も農家との信頼関係をさらに築き、長い月日を見越して農家のネットワークにプロジェクトが浸透していきe-MAPの完成を目指さないとはいけない。
- ◆石垣市観光協会から来年度のサンゴウィークの企画運営の提案をされた。
- ◆登野城小学校から小学生を対象とした活動紹介発表実施の提案がされた。
- ◆昨年に引き続き、全国大学生環境活動コンテストにおいて2年連続入賞を果たした。こうした場での発表も、個々の能力、プロジェクトの成長につながった。

受賞・メディア取材(新聞、広報誌、TV等)

第9回全国大学生環境活動コンテスト入賞、読売新聞埼玉版(1月27日)掲載、サンサンラジオ出演
掲載記事URL: <http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news2/06/20120127-OYT1T00042.htm>

プロジェクト活動を振り返って(チームとして成長したこと、感動や印象に残っていること、反省、今後の展望について)

2年 代表 江利川法孝

2010年12月にリーダーに就任して1年4ヶ月になる。留学・就活に忙しい先輩はプロジェクトに関与せず、僕は「リーダー」として何をしたらいいのかわからなかった。

新1年生が入学してからも

「リーダーなんだからしっかりして」

「リーダーなんだから…」

「リーダー」

この言葉の重圧に何度も押し潰されそうになった。

それでも僕はここまで来る事が出来た！

かけがえのないプロジェクトメンバーのおかげで…

最近になってやっとプロジェクトがうまく回り出しているように感じている。

1年生4人も自発的・積極的に行動を起こすようになり、発言量も格段に増えた。

また2年生も各々の個性を遺憾なく発揮している。

僕はメンバーが全員で1つの「プロジェクト」を作り出していると思う。

春には新入生も入学し5月にはプロジェクトに新たなメンバーが加わるはずだ。

また2012年12月には新2年生へ「リーダー」を引き継ぐ予定だ。

それまでは「次世代の育成」ということを1つの目標に活動していく。

そして次世代も活気のある「プロジェクト」が行われる事を期待する。

2年 白土航太

今年は今まで投げやりにされてきたプロジェクトを継続していくための基礎となる体制を構築する意識が芽生えた一年だった。

活動の中でお互いの感情、考えをぶつけ合っってプロジェクトとしても人間としても成長出来た一年だった。

反省として、成長や活動の進度がゆっくり過ぎる気がするのもったいない。

来年度は今後に向けて後輩の育成、何とかして目に見える成果を出すということにこだわっていきたい。

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



2年 山下達也

今年1年間の活動で、プロジェクトとして目に見えない部分での成長をすることができたと思う。春の現地活動では、メンバー全員でとことん話し合うことができ、「自分が考えているプロジェクトについて」や「お互いが考えるプロジェクトとしての個性」など普段話さないようなことを知ることができた。それからは、全員がよりプロジェクトと自分の関わりを意識しながら行動するようになり、個性が活かされた活動をする事ができていた。しかし、目に見える成果としては今年1年間弱かった部分もあるので、来年度の活動では特に目に見える成果を求めて活動をしていきたい。

2年 吉川由季乃

この一年間は、プロジェクトマネジメントを意識して活動することができた。メンバーの個人的な「〇〇したい！」だけではなく、「今、自分はプロジェクトとしてどう動くべきなのか？」を少しずつではあるが、一人一人が考えながら活動することができるようになった。今後もプロジェクトがマンネリ化しないよう、体勢、モチベーションを維持し続け、積極的に活動し続けたい。

1年 大沢拓也

このプロジェクトに入った動機は不純だが精一杯頑張ったと思う。とりあえずプロジェクトが良い方向に進むように最善は尽くしたつもりだが、現実にはそう簡単にはいかないということがこのプロジェクトに入って分った。まず、現地では十分な知識がないと話にならない、赤土流出防止のために自分の意見を提案しても周りの人間を納得させるだけの資料とプレゼン能力が必要、コミュニケーションの大切さ学ぶことはたくさんあったと思う。どうせやるなら徹底的にはこのことだ。しかしプロジェクトにおいてたくさんの経験と知識を得ることができたと思う。今後は相対的な見方で計画を練っていききたいと思う。

1年 改正菜摘

このプロジェクトから、わたしは自らのいい面悪い面について考えさせられると同時に、自らの長所を伸ばすことも出来たのではないかと感じています。はじめはサンゴ保全を目的にこの活動を始めたわけではありませんでした。しかし現地調査を通して今ある環境の大切さを知り、環境保全を自分の力で進めて行きたいと思えます。

1年 田中敬之

5月に新メンバーとしてプロジェクトに入った時は、知識不足ということもあり、ただ言われるがままに動いていた。しかし夏の現地活動に参加して以降はこのプロジェクトがどのような目的を持っていて、そのためにはどのような活動をするべきなのかが自分の中で少しずつ見えてきたため自発的に動けるようになった。これからは自分の長所や個性をもっとプロジェクトに活かせるようにしていきたい。

1年 柳谷龍摩

今年からプロジェクトに入り、初めは分からないことだらけでミーティングにもついてくのが大変だった。また、夏の現地活動でも不十分な知識だったため、現地の方から十分に情報を聞き出せなかった。しかし、プロジェクトを通して、いろいろなことに挑戦することができ、社会の厳しさも実感することができた1年だった。挑戦していく中、目標に近づけるよう、少しでも成果を出していきたい。



2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクト活動写真



6月：学内での活動の様子
(週に1回必ずミーティングを行う)



8月：石垣サンサンラジオへの出演



1月：読売新聞
取材風景



3月：現地の方と意見交換

6月

8月

10月

12月

3月



8月：明治学院大学と赤土流出
抑制に効果のある月桃を植樹



ISOシンポジウム(11月)・
SD研究会(5月10月12月)への参加



3月：疲れた体には、
おばあのお笑顔とアイスクリームが最高！